

**有意義な夏休みを！**

7月中は夏季課外が実施されます。夏季課外は通常の授業では不足する問題演習を確保する時間であり、知識を補強する時間でもあります。自学自習では気づけない解法を説明されたら新たに理解を深め、間違っているところに気づいたら修正しましょう。

7月30日からの19日間は、起きる時間も寝る時間も遊ぶ時間も、通常より制約がなくなります。だからこそ君たちの意識が試されます。この期間にどれだけのことができるのか、「何ができる」19日間であるのかを十分に考えて、「何かをやり遂げる」期間にしてください。

また、進学校の生徒として、学習でも挑戦してほしいことがあります。それは、1日10時間以上学習する日を設定するという事です。コツは、まず朝は普段通りに起きて、午前中に3～4時間取り組むことです。昼間に2～4時間勉強し、夕方以降「いつも通りに」3～4時間学習すると、確実に10時間以上を達成することができます。この夏にしっかり学習に取り組んだ生徒は、秋以降、驚くほど学力を伸ばします。この夏、皆がひとまわり成長してくれることを期待しています。

夏の学習 ～58期生～

58期生は、7月30日から全統共通テスト模試が実施されます。基本・標準レベルの問題に対して、自分の理解と判断の速度と精度を確認しましょう。その際、以下の点を意識しましょう。

英R	リード文・設問を丁寧に読み、思い込みをなくして求められている答えを選択する。
英L	音声が出る前の時間を大切に。情報量が多いときは「簡易な」メモをとる。
数学	使用する定義や公式を素早く判断し、問題数や計算量にリズムを崩されないようにする。
国語	語彙・文法・句形の問題に対しては短時間での解答を心掛ける。

今回は英語、数学、国語について説明しましたが、全ての教科に共通して言えることは、「時間配分」です。また、これまでの模擬試験を通して明らかになった自分の修正点を意識しましょう。設問の読み違いをなくす、移項時の符号に注意する、計算に時間をかけすぎないなど、次に「活かす」取り組みを実践しましょう。

ところで、模擬試験が向かう先は大学入試です。先日確認した進研共通テスト模試の結果をどう受け止めているでしょうか。意識してほしいのは、その成績が「5月末」のものだということです。58期生はこの7週間で確実に力を増しているはず。決して慢心せず、悲観せず、自分の目標に向けて地道に学習に励みましょう。

また、受験科目や配点を確認し、志望校合格には「何」が「どれだけ足りないのか」を把握しましょう。同時に自分の「強み」を「どれだけ生かせるか」を意識しましょう。詳しくは裏面の記事で紹介しますが、模試の結果などから自分の得手不得手を再確認して「この夏の重点項目」を設定しましょう。この時期に繰り返される「**夏を制するものは受験を制する**」という言葉は真実です。ただ量をこなすのではなく、確かな戦略をもって学習に取り組み、志望校合格に近づくための夏にしましょう。

ここまで、58期生向けに書いてきましたが、59期・60期の皆さんも、1年後・2年後の自分のこととして読み、今後の学習に生かしてください。

夏の進路の考え方

7月4日～6日の3日間、3年生の進路検討会が例年よりも日程を延長して行われました。記述模試や共通テスト模試の結果等を参考にして、一般選抜や総合型選抜、学校推薦型選抜などの受験方法の検討はもちろん、個別学力試験で必要な教科の現在の実力の確認や目標設定について、具体的に検討しました。58期生は、三者面談で積極的に質問し、今回の検討会の内容を踏まえたアドバイスをもらいましょう。個別学力試験の試験科目や配点を意識し、第1希望・第2希望の設定をどうするか、具体的な戦略を立てましょう。

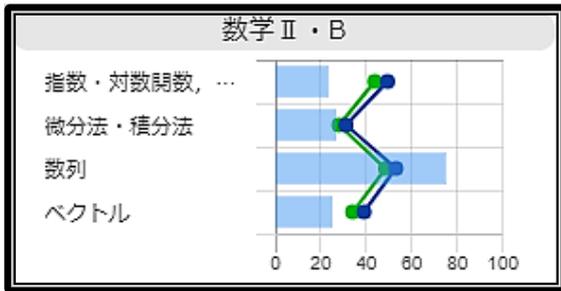
59期生は、7月21日に「かごしま“職”の魅力発見プロジェクト」で職業の情報を得ます。何が自分の将来を決めるか分かりません。今回のプロジェクトをきっかけにして、様々な職への関心を広げましょう。志望学部・学科についても、選択肢を具体化させる時期です。オープンキャンパスを活用しましょう。

60期生は、秋以降は、文理選択について考えなければなりません。その時に安易な選択をしないためにも、学部学科や職業について、三者面談で確認したことや自分で調べたことをもとに、将来へ思いを馳せましょう。

自分の課題を分割する

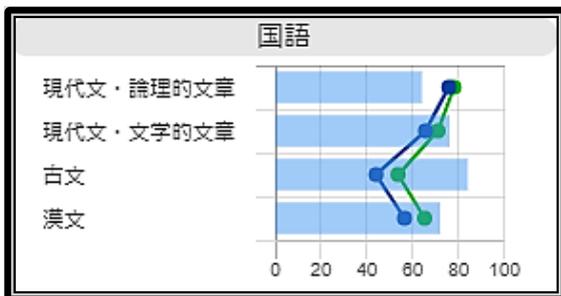
進路指導室だより6月号で紹介した、「課題を分割」することについて具体的に説明します。

棒グラフが本人の成績、折れ線グラフが全国（県）平均です。「数列」以外の得点率が20%程です。この中で、最も克服すべきは、どの分野でしょうか。



答えは「指数・対数」です。他の2分野は全国平均も低いため、「差が付いていない分野」ですが、「指数・対数」は「差が付けられている分野」です。「数列」で得たアドバンテージが、ここで放出されているのです。

では、次のグラフからは、何が分かるでしょうか。



答えは「古文が武器」ということです。平均点のグラフから分かるように、他の受験生に「差を付けている」分野だと言えます。高校生は、「論理的文章が取れていない」と思いがちです。ただ、「できたこと」も数えましょう。得点の源、自信の源を意識することは、心に余裕をもたらします。8月上旬以降、1、2年生も模擬試験の結果が分かります。自分の課題を分割し、自己理解を深め、行動に移しましょう。

夏休み中の学習室等の注意点

学習室の利用時間は、8:30~16:30です。

なお、以下の期間は学習室・図書室が使えません。

8/12~8/15 (学校閉庁のため)

(図書室は7/27・8/5・9も閉館)

学習効率を上げる

課題が分割できたら、次は克服に向かいましょう。課題克服のためには、実際どう行動すればよいのか、ここでは「OODAループ」という手法を紹介します。

OODAループとは、「①観察(Observe)」、「②状況判断(Orient)」、「③意思決定(Decide)」、「④実行(Act)」という4つのステップと「⑤見直し(Loop)」で構成されています。左の数学Ⅱ・Bを例にすると、

- ①「指数・対数関数…」、「微分法・積分法」、「ベクトル」の得点率が低い。
- ②低得点率分野の内、特に「差が付けられている分野」の「指数・対数」が課題である。
- ③教科書の例題を振り返り、類題に取り組むと決める。
- ④問題数や日数、期限を決めて取り組む。
- ⑤取組内容が適切だったか、計画に無理がなかったか、今回の取組をどうするかなどを確認する。

となります。他にも、②の段階で「勉強法」の検討をするのもよい方法です。例えば、(1)「例題を一周してから類題へ」なのか、(2)「例題と類題を1問ずつ振り返ることを1単位とする」か、といった検討です。この方法の場合、(1)が失敗だったとき、⑤の後にすぐに(2)に切り替えることができます。

また、効果的な学習には、「レミニセンス効果」が欠かせません。レミニセンス効果とは、情報を記憶した直後よりも、一定時間経ってからのの方がよく思い出せるというもので、特に効果的に記憶されるのは寝る前に学習した内容であると説明されています。したがって、効果を得るためには、寝る前に余計な情報は頭に入れないことが重要です。SNSや通信アプリの使用が学習内容を忘れさせるという科学的なデータもあります。

積み重ねた勉強量を「見える化」することも、モチベーションや学習効率を上げるのに役立ちます。C-passに正確な時間を記録し、累積の勉強時間を書き出したり、学習を全てボールペンで行い、使い切ったボールペンの芯を保管したりするという方法です。そうすることで、自分が確実に勉強しているという実感を手にすることができます。「合格体験記」や「不合格体験記」を読んで良いイメージや打ち克つイメージを作るのも良いでしょう。

大学入学共通テストまであと176日。頑張り3年生！